

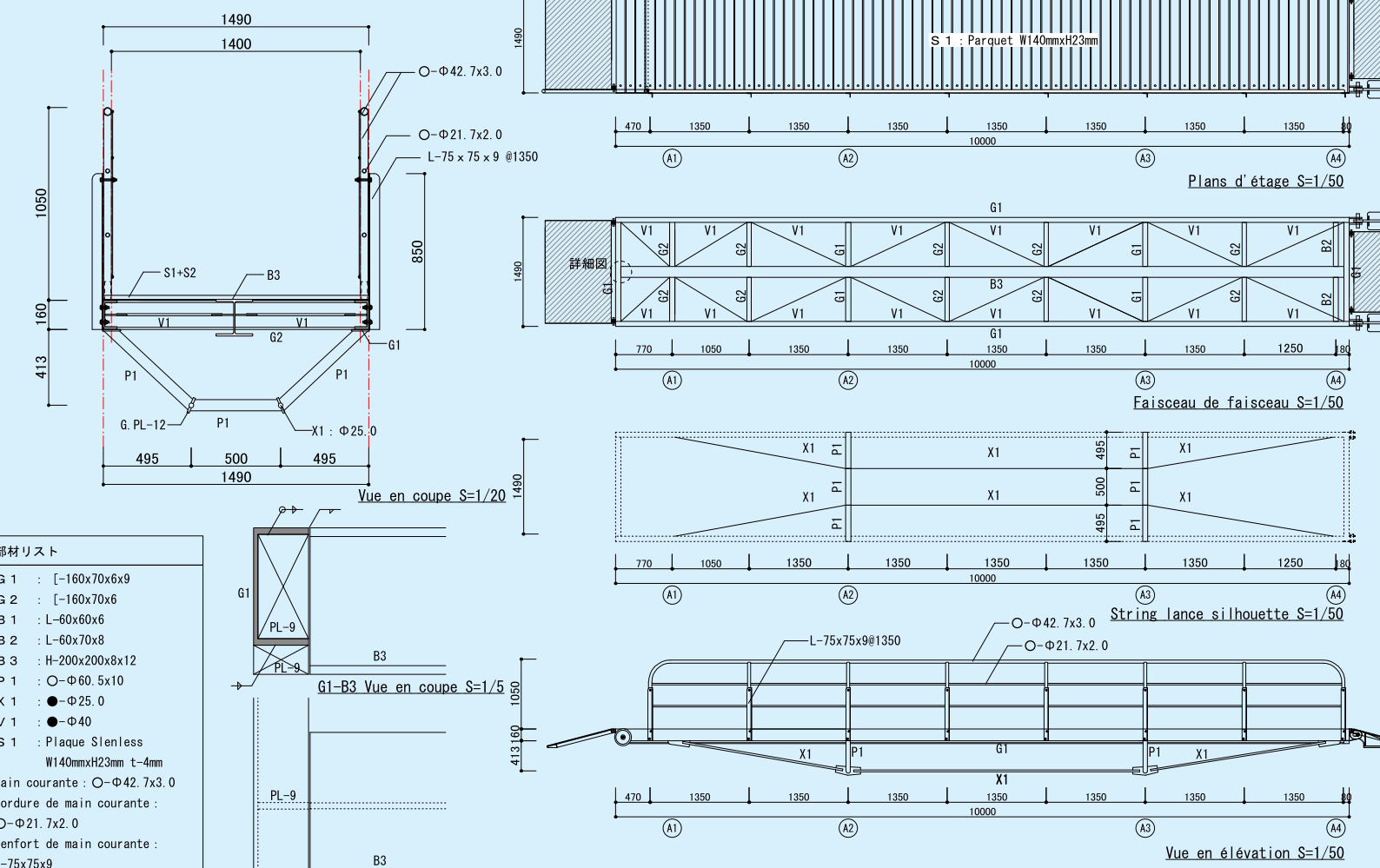
ASILE FLOTTANT

復活!

セーヌ川に呑み込まれてしまった浮かぶ建築
コルビュジエが愛した船「アジールフロタン」
(ルイーズ・カトリーヌ号)
2019年春から浮上を始めます。



<http://www.asileflottant.net>



ASILE FLOTTANT × ALLOY

建築家・コルビュジェの 「アジール・フロタン復活プロジェクト」とのご縁

ISSFのローマ大会(2014年)でステンレス普及の為、大学の建築学部で使用する教材をまとめることになったと業界紙で知り、後日、日本のステンレス協会がその教材を翻訳されたので入手し、私なりにステンレスに興味を示されると思われる大学の先生方にお届けいたしました。

2017年の秋になり、神戸大学大学院、建築学教授の遠藤秀平先生が弊社の光加工センターにお越しになり、船に渡る棧橋(コルビュジェのオリジナルデザインを元にした再現)の製作を依頼され、このプロジェクトを知った次第であります。
弊社が棧橋を製作することは可能ですが、このような国際的なプロジェクトであればメーカー各社様(日鉄ステンレス株式会社様、日本冶金工業株式会社様)のご賛同をいただくべきと思ってお話した結果、このようにご協賛をいただき進めることになりました。

ところが、フランスに設置するステンレス構造物を製作するには、現地規格(ユーロコード)の素材など諸問題が出てきて、時間が経過していきました。
様々な問題の折衝中、悪いことに昨年2月のセーナ川の増水で船が水没してしまい、現在もまだその状態です。

一時は、断念せざるを得ないかと悲観的になりましたが、幸いなことに「公益財団法人 国際文化会館」の助成事業により3月から復活に向けての作業が開始されました。

これまでにも、「レディーフォー」「パルクラブ」などで多くの皆様方にご支援をいただき感謝に絶えません。
これから船の浮上、そして弊社でのステンレス製棧橋の製作、現地での据付と今まで夢に見ていたことの実現が間近になりました。
今後のスケジュールはまだ流動的ですが、秋口には船の浮上、棧橋の出荷など、来年には「ルイズ カトリーヌ号」の素晴らしい姿が再現されますことは目前に迫りました。
パリに行かれる機会がありましたら、是非とも現地にお立ち寄りいただきたく存じます。

これからも、推移を見守っていただければ幸いです。

令和元年6月3日
株式会社 アロイ
社長 西田光作